

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

Process of “Asinaka” Collections in Attic Museum

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-02-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤井, 裕之 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00003892

保谷に建設し、1937年（昭和12年）には、収集した資料を日本民族学会（現日本文化人類学会）へ寄贈し、翌年には博物館の完成とともに博物館へ資料を搬入した。寄贈資料は、1962年（昭和37年）にはさらに文部省史料館（現国文学研究資料館史料館）へ移管され、現在資料を収蔵している国立民族学博物館へ移管されたのは1975年（昭和50年）のことである。アチック・ミュージアム関連資料はこうした経過をたどって現在に至っているため、アチック・ミュージアム資料を受け継いだ日本民族学会がその活動として収集した資料も含まれており、厳密にはこの資料群の全てがアチック・ミュージアムにおいて収集されたものではない。

アチック・ミュージアムでの民具研究は標本資料を数多く集めることから始まり、その最も著名なものは、かかとの部分がなく足の半分くらいの長さのわら草履である足半の研究である。

中村俊亀智は、アチック・ミュージアムでは、足半を含むワラの履物は最も充実した収集資料であり、その数約1,400、収蔵率97.9%におよび、収集は全国的であった。アチック・ミュージアムの収集には2つのやり方があり、そのひとつは集め手としての館自体が特定の資料を限定して集めた場合（集め手本位）、今ひとつは多少の枠や集め手のえり好みはあるかもしれないが、くれる人（くれ手）のもってきたものは、おおむね何でも貰っておくやり方（くれ手本位）があり、足半は集め手本位で集めたものが数多く含まれていたと指摘している（中村1984: 843, 847）。筆者はかつて、アチック・ミュージアムにおける足半収集のおおまかな経過とアチック・ミュージアムの同人である市川信次の指導により足半を収集していった「高田瞽女」の巡業経路を復元したことがある¹⁾。本稿ではこうしたアチック・ミュージアムの足半コレクションの形成の過程をより詳細に追っていくことにする。

2 『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』の刊行

足半は多くの収集者によって沖縄県を除く都道府県から全国的に数多く集められ、その研究はアチック・ミュージアム編『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』によって結実する。同稿は『民族学研究』第1巻第4号、第2巻第1号の2号にわたって掲載され、その発行年月は1935年（昭和10年）10月と翌1936年（昭和11年）1月である。その後記で渋沢敬三は、アチック・ミュージアムの同人のチームワークによる成果であり、その執筆分担は「標本資料の整理並に測定、足半の構造、結びの名称」は小川徹、「足半の製作及足半と他の履物」は磯貝勇、「足半の文献資料、名称及

び史的考察の部分」は宮本馨太郎, 「足半の用途及民俗の整理」は高橋文太郎, 「足半の概念並に摘要」は渋沢自身, 「レントゲン写真」は松尾象一, 「挿入写真」は木川半之丞, これ以外にもアチック同人は全部関与しており, 「注意と教導」は宮本勢助であると記し, 足半研究の動機については, 「数多い民具の中には意義の深く且つ大きい民具と如何に珍奇であり芸術的であるにしても我民族の生活に極めて交渉の少ないものがあるが, この内前者に就いて幾分でも研究して見度いと切望を持って居た我々は先づ手初めにこの足半を選んだのであった」と記している (アチック・ミュージアム編 1936a: 244-245)。執筆者の一人である宮本馨太郎は足半研究の動機を, 「足半は, アチック・ミュージアムの収蔵標本の中では意外にも分布的にも数量的にも比較研究に耐え得る程に全国的に数多く収集された」(宮本 1963: 11) ためとしている。他にも河岡武春は教導の立場であった宮本勢助の著作『民間服飾誌履物篇』が地方名の収集, 文献類の博搜, 標本収集と図版など足半研究の下敷きとされており, 足半研究への宮本勢助の影響は大きいとしている (河岡 1975: 14)。

収蔵されている足半には, 収集地, 採集日, 寄贈者名とともに, 足半に関する質問事項が記載された紙札が付けられているものがある。その質問事項は, ①足半の呼称。②結びの呼称。③これをシツキレと言ひませんか。④へびにかまれないと言ひませんか。の4項目で, 個々の足半の名称や結びの名称, 俗信などの情報をデータ化していったことがみてとれる。河岡武春は『所謂足半(あしなか)に就いて(豫報)』について形態, 構造, 製作, 方言名称, 用途, 民俗, 史的考察におよぶ方法論はまさに民具学の方法論であるとする (河岡 1975: 18)。こうした視点による手法は後の民具研究のあり方や方法論に大きな影響を与え, 民具研究の基礎を築くこととなる。

さらに後記において渋沢敬三は「本稿の前半が掲載後も尚引き続き各方面から多数資料の恵送に預かった。(中略)資料の整理に記述に配列に幾多の冗長と不備と不均衡とを発見自覚した。しかし, これらに関しては他日更に資料を充実し, その価値を精査したる後, 今一度深く検討を施して見度いと思つて居る。本論が試みであり豫報である点を御諒承の上, 研究方法並に資料両者にわたり腹藏なき叱正高教を賜はらんことを切に御願する次第である。」(アチック・ミュージアム編 1936a: 245) と締めくくっている。これは足半は, その研究成果が『民族学研究』へ掲載された後も継続して収集され, 渋沢自身も調査研究の継続の意思を宣言した内容となっている。また, 1936年(昭和11年)3月に発行された『アチックマンスリー』9号の「MEMO」には, 改めて彙報として上梓する予定であり, そのための補遺原稿を小川徹が作成していたが, 卒業試験のため延引していたことが明らかになっている (アチック・ミュー

ゼウム編 1936c: 3)。そして、翌月の10号には、そのための足半の整理が再開され、標本、報告、文献の増補整理も半ば以上終えたとあり、また、同時に抜刷りが校正に廻ったことが記されている（アチック・ミュージウム編 1936d: 3）。1936年（昭和11年）6月20日発行の『アチックマンスリー』12号の「MEMO」にも足半豫報抜刷りができたことが報告され、これは資料を提供して下さった方やその他の人々に送られたとある（アチック・ミュージウム編 1936e: 3）。

この抜刷りとは、『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』が『民族学研究』に掲載された後アチック・ミュージウムから1936年（昭和11年）5月30日に刊行されたもので、表紙に「民族学研究第一巻第四号第二巻第一号所載」とあるように『民族学研究』に掲載されたものを合本して1冊にまとめたものであり、『アチック・ミュージウム彙報9』として位置づけられている『所謂足半（あしなか）に就いて』ではなく、渋沢の主張通りいまだ豫報であり試みであった。

この間の事情は『アチックマンスリー』に幾分登場する。1936年（昭和11年）12月発行の『アチックマンスリー』19号に掲載の「烏兔早早——アチックの一年」では、1936年（昭和11年）の年末に1年を回顧するにあたって本年刊行の予定であった足半続編が編者怠慢により来年度持越となった旨の記述がある（アチック・ミュージウム編 1936f: 2）。また、1937年（昭和12年）1月発行の『アチックマンスリー』20号の「新年打合せ会」では、1937年（昭和12年）1月の新年打合せ会において、本年（1937年・昭和12年）の刊行予定書目として『彙報9アチック・ミュージウム編所謂足半（あしなか）に就いて』が発表され（アチック・ミュージウム編 1937: 3）、1938年（昭和13年）12月発行の『アチックマンスリー』30号の「出版室」では、1938年（昭和13年）の年末には新年打合せ会において計画されたものに『彙報9アチック・ミュージウム編所謂足半（あしなか）に就いて』があるものの、出版報告リストにはあがっていない（アチック・ミュージウム編 1938: 4）。

以後、『アチック・ミュージウム彙報』や『アチック・ミュージウムノート』の巻末に掲載された刊行書目の紹介では『彙報9』は「豫報」の文字がない『所謂足半（あしなか）に就いて』であり、長らく1941年（昭和16年）9月発行の『彙報48』まで近刊と表示され続け、その年10月発行の『彙報49』以降に発行されたものには未刊と表示されるようになる。つまり、渋沢が後記で記載したように、明らかに（豫報）をとった第2の足半研究を刊行する意思をこの時期までは持ち続けてはいたが、1941年（昭和16年）の9月・10月を境に何らかの理由で諦めざるを得ない事態になったものと考えられる。もっとも、『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』刊行後の、

特に1937年（昭和12年）以降においては、アチック・ミュージアムの民具の研究会では、研究の関心は足半ではなく、筥に移行していくことになる²⁾。

3 足半の収集時期と収集者

足半研究が前述のように『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』の発行という1つの区切りを持ちながら、それ以降も継続しようと考えられていたことは足半の収集時期にも反映されている。すなわち、『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』の発行以降にも積極的に足半が収集されているということである。

『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』では全国的に収集された足半347点を分析対象としており、その内訳はアチック・ミュージアムの所蔵品が239点、日本青年館郷土資料室収蔵品が30点、研究で教導的立場であった宮本勢助の収蔵品が78点である。『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報1）』において分析対象となった足半一覧表に記された収蔵番号とはアチック・ミュージアムの収蔵台帳である『民具標本収蔵原簿』における収蔵番号である。表1はその収蔵番号を手がかりにアチック・ミュージアムの所蔵品を現在の所蔵先である国立民族学博物館の標本番号と対照し、『民具標本収蔵原簿』に記載されている収集者が資料を採集した日とアチック・ミュージアムにおいて収蔵された日を一覧にしてみたものである。

長年の資料保管先や保管者の変更によって所在不明となったものや特定しかねるものもあるが、大半は特定可能である。こうした年月日を特定するのは発行以前に調査研究対象となった資料がいつ収集された資料なのかを知りたいためである。判明する採集年月日で最も最後に採集された日付は収蔵番号5541と5542の長崎県で採集された2点で、1935年（昭和10年）8月24日である。収蔵日では収蔵番号5555の兵庫県で8月30日に採集された資料の1935年（昭和10年）9月20日であり、その他にも8月採集の資料は多く分析に用いられているが、9月以降に採集されたものは分析対象となっていないため、1935年（昭和10年）8月末が発行以前、発行以降のいずれの収集なのかを区分する目安となると考えられる。

実際、『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報1）』の4章「足半の構造」には「八月下旬以降入手の足半は標本中には加えたが、測定は行って無い。此の数三四箇」とあり（アチック・ミュージアム編1935c）、1935年（昭和10年）7月30日発行の『アチックマンスリー』1号の「MEMORANDUM」には、「八月一杯で一まず完結の豫定を急ぎつつある。」（アチック・ミュージアム編1935a）同年8月30日発行の『アチッ

クマンスリー』2号の「MEMORANDUM」では、「アシナカは測定を一先づ終了し、今後はその整理にとりかかることになった。」(アチック・ミュージアム編 1935b)としている。

足半の収集時期に関しては、年度ごとの収集数を記した表2のとおりである。採集年、収蔵年すら不明の資料もあるが、収集時期が判明する資料によっておよその傾向を掴むことは可能と考える。

アチック・ミュージアムの郷土玩具時代といわれる1921年(大正10年)～1927年(昭和2年)には足半の採集はなされていない。最初の収集が確認できるには、1927年(昭和2年)8月の藤木喜久麿による東京都三宅島坪田(現東京都三宅島三宅村坪田)での3点と東京都神津島(現東京都神津島村)、新島(現東京都新島村)での各1点、計5点で、この年はこの5点のみである。次いで翌年は収集が確認できず、1929年(昭和4年)には、やはり藤木喜久麿が東京都八丈島大賀郷村(現東京都八丈島八丈町大賀郷)で3点、早川孝太郎が岐阜県恵那郡下原田村(現岐阜県恵那市の一部)で3点、黒田清良も群馬県邑楽郡館林町(現群馬県館林市館林)で1点採集している。

1930年(昭和5年)には村上清文が東京都西多摩郡小河内村(現東京都西多摩郡奥多摩町の一部)において2点、早川孝太郎が愛知県北設楽郡御殿村(現愛知県北設楽郡東栄町の一部)で、宮本勢助が群馬県利根郡水上村(現群馬県利根郡みなかみ町の一部)で各1点採集しているがこの4点にとどまっている。

1931年(昭和6年)にはアチック・ミュージアム旅行団の名で6月の山形県の飛鳥村勝浦(現山形県酒田市飛鳥勝浦)において2点、9月に長野県穂高町(現長野県安曇野市の一部)で1点と合計3点収集している。6月の飛鳥村での収集は羽後飛鳥から津軽十三・竜飛崎をめぐった際のものであり、9月は信州浪合・中馬街道の旅先での収集と考えられる。こうしたアチック・ミュージアムでの旅行はアチック・ミュージアムの同人のいわば研修旅行であり、旅先で標本資料を収集した例といえる。

1932年(昭和7年)は早川孝太郎による鹿児島県川辺郡西南方村(現鹿児島県南さつま市の一部)と和歌山県西牟婁郡潮岬村(現和歌山県東牟婁郡串本町の一部)での2点と小田内通敏による東京都南多摩郡恩方村(現東京都八王子市の一部)の1点、合計3点である。

1933年(昭和8年)からは徐々に収集数が増え始め、採集日が判明するものが14点にのぼり、収蔵日が判明するものは8点あり、計22点と二桁となる。この年の収集者はアチック・ミュージアム同人が7点、早川孝太郎、渋沢敬三が各2点、磯貝勇、

結城次郎、幸野辰夫が各1点となっている。

1934年（昭和9年）は採集日から判明するものが46点となり、収蔵日がこの年のものが3点となり、計49点となる。主な資料は磯貝勇の広島県での採集などである。この年はアチック・ミュージアム同人が鹿児島県の薩南十島、広島県比婆郡八幡村（現広島県庄原市の一部）、鳥根県知夫郡・周吉郡（現鳥根県隠岐郡の一部）、静岡県富士郡（現静岡県富士市・富士宮市の一部）、山梨県西八代郡、秋田県南秋田郡、滋賀県滋賀郡（現滋賀県大津市の一部）で29点を集め、早川孝太郎が4点、浅木兵一、高畑新之助が各3点、清野が2点、桜田勝徳、岩井亀千代、市川信次が各1点となっている。

民具研究が本格化してくる1927年（昭和2年）～1933年（昭和8年）にかけては46点を数えるに止まるが、1933年（昭和8年）がその半数を占めて増加し始める端緒の年となっており、1933年（昭和8年）、1934年（昭和9年）はアチック・ミュージアム同人による収集の占める割合が高くなっている。

「所謂足半（あしなか）に就いて（豫報1）」が『民族学研究』から発行された1935年（昭和10年）は、242点と1つのピークを迎える。『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』において分析対象とされた8月末までに採集されたものが77点、収蔵されたものが29点で、あわせて106点。それ以降では採集日によるものが37点、収蔵日が9月以降のものが74点で、あわせて111点、採集月日の不明なものが25点となる。発行前と発行後の数字はほぼ同じである。

この年の収集者の内訳は発行前については採集日で見るとアチック・ミュージアム同人が17点、金子総平が11点、市川信次10点、江島勝美5点、窪田五郎、村上清文各4点、永井竜一、大沢三千三の各3点、内田武志、荻原治作、山口和雄、内田勝也、村上俊順、小松勝美の各2点、増山清太郎、高木一夫、結城次郎、柿塚欣一郎、吉岡高吉、安斎満、藤木喜久麿の各1点、収蔵日が判明するものでは磯貝勇の4点、武藤鉄城、河田杰が各3点、早川孝太郎、宮本ユキ、内田武志、後藤貞夫、荻原治作が各2点、吉岡高吉、山本勇、藤木喜久麿、岩倉市郎、宮本常一、小川徹、宮本武雄、吉田千代、桜田勝徳と山口和雄の連名のものが各1点である。河田杰と宮本ユキは年月日は不明ながら収集地が同じものが多く、同時期の収集と思われる資料があり、さらに数が増えると思われる。

発行後では採集日によるものでは市川信次の13点、アチック・ミュージアム同人の7点、金子総平の5点、小林未夫の2点、秋田正一郎、岩倉市郎、小川徹、収集者不明が各1点。収蔵日においては、山本二三丸の13点、内田武志の9点、後藤謙三、

高木一夫の各5点、早川孝太郎の4点、金子総平、宮下恒、中島吉應の各3点、岡田松三郎、門川盛蔵の各2点、1点は永井龍一、宮本常一、山本リテ、宮下国広、常松卓三、斎藤善助、箱山貴太郎、西田卓、山崎毅、大宮美年臣、山下久男、五十沢二郎、渋沢敬三、松田常彦、村上清文、山口康雄、片岡長治、市川信次、島崎正幹となっている。

月日不明の25点では、内田武志が12点、市川信次が7点、金子総平が2点、斎藤敏男、村上俊順が各1点となっており、内田武志と市川信次が目立つ。その顔ぶれは発行前後で似たような傾向であるが、収集した足半の数に対応するように収集者の人数も増え、同人たち以外にも、おそらくアチック関係者ではないと思われる地方の研究者の収集がふえ、各地の協力者による収集が増加していく傾向を読みとることができる。この時期は各地の研究者とアチック・ミュージアムの協力関係が定着し、アチック・ミュージアム同人による収集の比重が増える一方で、それ以外の人々の収集も活発化される点の特徴といえる。

この年のピークは『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』は数多くの足半を分析することによりその研究がなされたため、その発行を控え、できるだけ多くの資料を分析対象とするため収集されたことがうかがえる。発行以降にも多く収集されている点は、先述の渋沢の「本稿の前半が掲載後も尚引き続き各方面から多数資料の恵送に預かった。」（アチック・ミュージアム編 1936a: 245）という言葉に裏付けられている。

1936年（昭和11年）は採集日と収蔵日が判明するものが合計で81点で一旦減少する。収集者には宮本馨太郎の8点を筆頭に、祝宮静7点、岩倉市郎、金子総平、向山雅重の各5点、早川孝太郎、林魁一、江島勝美の各3点、高木一夫、山田芳子、山口常助、古野清人、兵頭賢二、三田村耕治、アチック・ミュージアム同人の各2点、山口康雄、高橋文太郎、木川半之丞、村上清文、林友英、土屋利夫、有川金吉、小林英夫、山下久男、高橋哲雄、岡本三郎、伊豆川浅吉、松原久治、増山清太郎、磯貝勇、丹田次郎、窪田五郎、宮本常一、横内三直、日本青年館郷土資料陳列所、高岡銀行上市支店の各1点となっている。

1937年（昭和12年）は第2のピークともいえる147点を数えるが、この年は草間このえ、千代による収集が106点、アチック・ミュージアム同人が5点、結城次郎3点、南藤松、飯城斐子、永井龍一、守木清、山口常助、長岡博男、瀧波善雅、鈴木棠三が各1点、不明が25点である。この年の収集は大半が草間このえ、千代によるものである点に特徴がある。

1938年（昭和13年）は69点を数えるが不明が65点に及び、アチック・ミュージアム同人が3点、及川宏が1点である。1937年（昭和12年）・1938年（昭和13年）の収集者不明資料の収集地は大半が草間このえ・千代が収集した地域と重なるため、その時期と相まって両者の収集の可能性がきわめて高いが、この点については後述する。

1939年（昭和14年）になると33点とさらに減少し、この年で足半の収集時期が判明する例はなくなり、収集は終局へと向かう。この年の資料は青森、岩手、宮城の3県で精力的に収集した河田杰の寄贈資料である。そして、『民具標本収蔵原簿』に再度日付が登場するのは1954年（昭和29年）となる。

4 足半の意識的収集

足半を何らかの形で集めた人たちは、個人・機関を含め119にのぼる。こうした収集者がどのように足半を集めたかを知るには、収集に際して、足半と足半以外の資料を各々どれほど集めたかという足半への関心度がある程度知る必要がある。そこで表3は収集者ごとに集めた資料の総数と足半の収集数、全収集資料数に占める足半収集数の割合（足半率）、そして足半の数には『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』の発行前と発行後のいずれの時期の収集にあたるかの内訳を記した。

最も数多く集めたのは、1937年（昭和12年）に新潟県で数多く集めた2の草間このえ・千代の2人で収集日不明の資料もあるため前述の106点よりさらに増えて116点となる。足半率は100%で足半のみに焦点をしばって収集している。その他数多く集めた収集者は3のアチック・ミュージアム同人が73点で、41の旅行団の3点を加えると76点となる。足半率は同人が9.1%で旅行団も含めると8.6%となる。足半率は高いとはいえないが、アチック・ミュージアムコレクション全資料数に占める足半の割合がおおよそ4.9%であり、この数字と比較すると調査の旅先においても他の資料より意識的に収集していたことがうかがえる。

次いで多くを集めたのはアチック・ミュージアムの同人たちで、4の市川信次の35点、6の金子総平の29点、7の内田武志の26点、8の早川孝太郎の24点、9の磯貝勇の12点、10の藤木喜久麿、11の山本二三丸の各11点と続く。また、同人ではないが、5の河田杰が33点となる。河田は前述したようにその大半が1939年（昭和14年）の東北3県での収集によるものである。こうした同人たちの足半率は山本二三丸の92%と金子総平の55%、市川信次の48%、内田武志の30%といった比較的高いグループと、磯貝勇の13%、早川孝太郎の4.6%、藤木喜久麿の2.1%と低いグループ

に分かれる。藤木喜久麿、早川孝太郎は極めて低い数値といえるが、アチック・ミュージアム同人、渋沢敬三について多くの資料を集め、アチック・ミュージアムコレクション全資料数に占める足半の割合4.9%に近く、藤木喜久麿は特にアチックミュージアムの初期の玩具収集の中心人物であったことから足半を特別視せず、通常の収集を行った結果ともいえる。

そう考えた場合、山本二三丸、金子総平、市川信次はかなり足半に焦点をしばっていたことが判明する。内田武志についてもある程度足半を意識していたといえるのではなかろうか。こうした傾向は早川孝太郎による収集が1929年（昭和4年）から始まるのに対し、市川信次は新潟県中頸城郡において、内田武志は静岡県において、また、金子総平もその大半を、いずれも1935年（昭和10年）に集中的におこなっていることから読みとれる。なお、山本二三丸の収集は1936年（昭和11年）である。また、磯貝勇、藤木喜久麿が『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』発行前に、山本二三丸の収集が発行後に集中していることを除いて、同人たちは『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』発行前、発行後とさほど大きな数字の違いがなく、一貫して意識的に足半を収集していたと考えられる。

磯貝勇は『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』の執筆者の1人であり、広島県下の足半を収集し、1937年（昭和12年）に刊行された、民具の使用者、寄贈者から名称、採集、製作、使用、由来などの事項の質問とその回答を報告した『民具問答集』では、足半に関する回答者にもなっている。しかし足半率からは、自らが積極的に収集をしていたわけではないことがうかがえる。こうした傾向は他の分担執筆者全員にいえることで、37の小川徹の50%を最高に16の宮本馨太郎は2.3%、114の高橋文太郎は1.9%、29の渋沢敬三は最低の0.6%となっている。なお、107の宮本勢助は7.7%である。執筆者のこのような低い足半率および足半率が50%と高い小川徹も全収集資料が6点と他の執筆者と比べ極端に少ない点から、同人の中では資料を収集する者と分析する者といった立場の違い、役割分担が存在していたことが予想される。

また、この収集者の中には先の草間このえ・千代以外にも足半だけを収集した足半収集率が100%である者が43人と3団体あり、全体の約39%を占めている。これらの収集者は草間このえ・千代を除くと収集数もわずかであり、明らかに足半に絞って収集している姿が浮かび上がってくる。また、これらの収集者を発行前と発行後に分けると発行前が22、30～32、42、43、64、65の8人、発行後が2、19、33～36、44～50、66～87の32人と3団体、不明が3となる。こうした収集者は同人ではなく、

地方の研究協力者であることが特徴となっており、発行前の収集者は1934年（昭和9年）が高畑新之助、浅木兵一、清野の3名、1935年（昭和10年）が荻原治作、大沢三千三、内田勝也、柿塚欣一郎、斉藤敏男の5名である。このような収集は、収集が佳境に入った以降の特に1935年（昭和10年）の『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報1）』の発行を控えてアチック・ミュージアムが意識的に足半の収集を地方の協力者に依頼したことに呼応したものと考えられる。そして、こうした状況は発行以降もしばらく継続していく。その他の同人においても収集数が少ない者は足半率が高く、足半の収集数は少ないながらも足半を意識的に収集していたことがわかる。

収集の多い地域は、こうした同人たちの収集結果を反映した形となっている。都道府県ごとの足半収集数をまとめた表4のとおり、最も多く集められたのは新潟県の269点で、これは草間このえ・千代両人と市川信次による収集が主となったものである。ずば抜けた数とともに収集形態も後述するように特異なもので特筆に値する。長野県も37点で3番目に多い県であるが、これも半数近い17点が草間このえ・千代の収集によるものである。2番目に多いのは静岡県で51点あり、そのうち内田武志が半数近い22点を収集しており、地元で多くを収集している。4番目に多いのは鹿児島県の34点で、アチック・ミュージアム同人が11点、岩倉市郎が7点、野間吉夫3点、早川孝太郎3点、中島吉應が3点となっている。その他の県でも、アチック・ミュージアムの調査旅行先での収集や同人による収集が主となっており、アチック・ミュージアムの足半への注目度がわかる。

足半収集者のうち足半率が100%である者は約4割を占め、足半は地方の研究協力者に支えられ、積極的に意識的に集められていく。また、アチック・ミュージアムの同人の中にも使命として足半収集を行っている、足半率が高い者が存在している。また、足半率が低い者であっても足半の収集数は多いため、足半は他の資料にくらべ意識的に収集されていたことが明らかである。

5 草間このえ・千代による足半収集

第2のピークである1937年（昭和12年）は、草間このえ・千代に代表される収集である。2人の収集は、足半だけに焦点をしばって、意識的に、しかも数多く収集し、その収集方法においても異彩を放っている（藤井2001a: 34-35, 2001b: 54-57, 2001c: 15-17）。中村俊亀吉は足半調査のさまざまな工夫として、市川信次の誘導で草間このえ、千代両氏が警女として新潟県東頸城から長野県南佐久までの旅先での収集、記録

を作っていったことが『民具標本収蔵原簿』によって知られるとし、その採集年月日と採集場所を足取りとして表にまとめ、同地方からの収集で収集者が未記入の資料も両氏の収集だと考えられると紹介している（中村 1984: 862）。

現在収蔵されている足半には「高田市（ゴゼ）草間このえ、千代共同採集、市川信次採集誘導」と記された紙札が付されているものがある。斎藤真一によると草間このえは1914年（大正3年）生まれ、千代は1902年（明治35年）生まれで、収集当時、2人は新潟県高田市（現上越市の一部）に本拠をおく「高田瞽女」で、瞽女を統率する座元を勤める草間ソノの弟子として高田市北本町にあったソノの瞽女屋敷に住んでいた（斎藤 1972: 102-102, 1975: 118, 331）。そこで、アチック・ミュージアムの同人である市川信次の指導のもと、瞽女として巡業する先々で足半を100点以上収集している。収集を指導した市川信次は、1932年（昭和7年）頃から郷里である新潟県高田市の「高田瞽女」の調査、研究を始めたことから、座元を勤めていた草間ソノの弟子として、ソノの屋敷にいた2人に瞽女の巡業に伴う密度の高い、巡業地ごとの採集を思いつき収集を依頼したものと思われる³⁾。

市川信次によると、瞽女は特有の長い語り物の唄などいろいろな唄を歌い聞かせながら、村から村へ泊まりを重ねて回り歩くのを業とする。「高田瞽女」は、親方の瞽女と師弟関係を結んで養女となり、親方の家に同居しながら、唄、三味線の稽古、修行をし、1年の大半を主として新潟県東頸城、中頸城、西頸城の3郡と長野県の一部の村々をいく度かに分けて巡業していくが、その時期と順路は座元を中心とする親方の間で話し合いによって決定されるものの、毎年ほぼ一定している。巡業先には無償で食事や宿を提供する瞽女宿と呼ばれる家々があり、瞽女たちは、昼は門口に立って唄を聞かせ、また、夜になると、瞽女宿に集まって来る人たちに唄を披露した（市川信次 1994: 140-149）。瞽女は瞽女宿を泊まり歩きながら門付け巡業を続けており、宿を提供する地域社会と瞽女とのこのような相互扶助の慣行が、巡業地ごとという、きめ細かな、密度の高い足半収集を可能にしたといえる。

2人の足半採集は、年月日まで判明するものでは、1937年（昭和12年）5月23日から6月14日にかけて新潟県東頸城郡方面、6月20日から8月8日にかけては新潟県中頸城郡から長野県下高井郡、小県郡、南佐久郡の一部、そして8月24日から9月16日にかけては新潟県中頸城郡の一部と西頸城郡に及んでおり、瞽女の巡業経路に沿って収集がなされていったことをその足跡が物語っている⁴⁾。

この足半収集を指導した市川信次のご子息市川信夫氏の手元に、市川信次に宛てた草間千代からののがき4通（①～④）と手紙1通（⑤）、このえからののがき1通（⑥）

が残されている⁵⁾。以下、全文をあげてみる。

① 1937年（昭和12年）5月27日、「新潟安塚」の消印付のはがき

「出發後は無事にて前進致して居りますから御安心被下候御話のザウリ事思ふ程集まりませんが来る廿八日頃にわ二十束位御送り出来る事と思ひ居ます少々成共御請取り被下れ度右御通知申し上げます。」

② 1938年（昭和13年）2月19日、「新潟□□」の消印付のはがき

「拝啓陳ス兼而御貴殿ヨリ御依頼申受置し草履マニアワセヲキ候ニ附来ル廿三日頃乍御足労受取方御出張被下度待居り候也。敬具 十九日」

③ 1938年（昭和13年）5月9日、新潟県中頸城郡板倉村下関田より発送のはがき

「拝啓前文御免下さい。私も十二日に帰りますが、足中草履も集りましたから十三日に（みよん講）ですから子供衆を連れを御出で下さい御待ち申して居ります。では早速ですが御知らせ迄。以上 五月九日」

④ 1938年（昭和13年）6月9日、新潟県東頸城郡浦田村より発送のはがき

「日に増暑たかに相成りました。貴兄様には其後御如何が遊ばされ居りますか。私共一同無事に働ら来居りますから御安心下されたく今は浦田に居りますか田植え始まりますか高田の方は田植の方はいかが出するか暑さの中御身体を大切に御働ら来下さる用御願申す来ル十五日には帰りたいと思ひますか其の節は御遊びに御い出下さる用に致して下さい先は時候の暑さ出すから御身体を大切に隆にて御□り申して居ります。六月九日」

⑤ 年不明4月9日、新潟県西頸城郡西海村字真光寺より発送の手紙

「ハイケ、ゴブサタイタシマシタ、センジツイロイロオセワニナリマシタ。ミナサンニワオカワリガ、アリマセンカ。ワタクシタチモ、ブジデハタライテオリマスカラ、ゴワンシンクダサイ。アナタニゴシンバイオカケテ、マコトニスミマセンデシタ。シンバイシテイタダイテワ、カイトワタクシタチノオクニノタメニナラナイト、オモイマスカラ、ドウカシンバイシナイデクダサイ。二十七日ニ、タカダシパツシマシタガ、モウ十五日ニナリマスガ、アシナカワ、アツマラナイノデ、ホントウニザンネンダ。モウナダチダニモ、ノウダニモ、オヤシマシタ、イマワニシヨミダニハイリマシタ。十二日カラハヤカオイハイリマス。マイニチヨルアメフテモ、ヒルマワオテンキデ、ワタクシタチモヨロコンデイマスカラ、ゴハンシクダサイ。サヨナラ（句読点筆者）。」

⑥ 1938年（昭和13年）7月19日、長野県丸子町6丁目より発送のはがき

「ハイケ、ナガナガゴブサタイタシテ、マコトニスミマセン。ホントウニスミマセン。ハヤクアゲタイトオモイマシタケレドモ、ツイオソクナツタノデ、ホントニスミマセンデシタ。ミナサマニワ、オカワリガアリマセンカ、ワタクシタチモブジデ、ハタライテオリマスカラ、ゴワンシンクダサイ。八月十一日ノヤコニカイリマスカラ、ソノトキアソビニキテクダサイ。サヨナラ（句読点筆者）。」

①は1937年（昭和12年）5月27日に新潟県安塚から発送されたもので、市川信次へ草履（足半）の受取を依頼する内容である。実際、1937年（昭和12年）5月27日に草間このえ、千代によって安塚村小谷嶋で収集された足半があり、集めた足半が幾分か貯まってくると、市川信次の元へ送っていたことがわかる。

②は1938年（昭和13年）2月19日の消印があり、同じく草履の受取依頼であるが、これによって1937年（昭和12年）だけでなく、収集記録のない1938年（昭和13年）にも収集がなされていたことが裏付けられる。

③は1938年（昭和13年）5月9日に新潟県中頸城郡板倉村下関田から送られた、やはり足半の受取依頼であるが、1938年（昭和13年）5月9日に下関田で収集された収集者不明資料が存在しており、おそらく、草間このえ、千代の両者が収集したものと考えてまちがいないと思われる。

④は1938年（昭和13年）6月9日付で、新潟県東頸城郡浦田村から送られ、内容は時候のあいさつである。高田警女は毎年同時期にほぼ同じルートで巡業をしていることを勘案すると、1937年（昭和12年）6月9日に浦田村浦田で収集された資料をはじめとして、収集者、収集日ともに不明の浦田村収集の資料についても両者の収集である可能性が高いと考えられる。

⑤は年不明であるが、4月9日に新潟県西頸城郡西海村字真光寺から出されたものである。この年を他のはがき類から1938年（昭和13年）と考えると、2日後の1938年（昭和13年）4月11日に西海村字真光寺に近い西海村釜沢で収集された収集者不明の資料があり、この資料も両者の収集である可能性は高い。

⑥も収集記録のない1938年（昭和13年）の長野県における収集を裏付けるものである。

これらのはがき、手紙からは、1937年（昭和12年）だけでなく、1938年（昭和13年）においても、巡業中に足半収集の巡行を行っていたことが裏付けられ、この収集とほぼ同時期、同地域において収集されながら、何らかの事情によって収集者の名が欠落した100点以上の足半の大半も草間このえ・千代による収集の足半と考えられてはいたが、その可能性がより深まったといえる。2人の収集はさらに広範囲に及び数多くなされたことになる。

こうした草間このえ・千代に代表される1937年（昭和12年）～1938年（昭和13年）の第2の収集ピークおよびその前後の年も比較的数量多く収集されていることから『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』の発行以後でありながらも、『彙報9』の

『所謂足半（あしなか）に就いて』の刊行を目指して集め手本位に意識的に収集がなされていたことが想像できる。

アチック・ミュージアムにおける資料収集は寄贈してくれるものを集める寄贈者本位によるものが多いが、足半に関しては、多くの収集者が明らかに、定められた研究テーマの素材として意識的に収集していたことが、集められた収集データによっても裏付けられるのである。

6 まとめ

アチック・ミュージアムが『民族学研究』に掲載した『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』は予報（試み）として世に出されたものであったが、民具をさまざまな視点からアプローチする民具研究法を提示し、民具研究の端緒となった。その足半収集は1927年（昭和2年）から始まり、1933年（昭和8年）～1934年（昭和9年）にかけて収集が増え、『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報1）』が刊行された1935年（昭和10年）に一つのピークを迎える。その収集はアチック・ミュージアムの同人に加え、アチック・ミュージアムと地方の研究協力者との関係が定着していくことにより収集が活発化していった結果、もたらされたものであった。

『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』の分析対象となっている足半の大半は1935年（昭和10年）8月末までに採集、収集されたものである。アチック・ミュージアムではその後も不備を修正し、資料の充実をはかり、足半についての本格的な検討をめざしていく。それは未完に終わるが、足半収集は積極的に行われ、1937年（昭和12年）には第2の収集のピークを迎える。この年の収集は「高田瞽女」の草間このえ・千代による収集で、瞽女の巡業経路に沿って行われた特異な収集であった。この2人は最も数多く足半を集め、積極的に足半収集をした代表者である。この収集を指導した市川信次宛に出されたはがき、手紙の内容から従来、2人が収集した1937年（昭和12年）～1938年（昭和13年）と同時期、同地域において収集者が不明であった足半100点以上も、2人の収集である可能性が高くなった。2人はさらに多くの足半を収集していたことになる。

全足半収集者において総収集資料数の中で足半収集数が占める割合（足半率）が100%となる、すなわち足半しか収集しなかった者は39%にのぼる。アチック・ミュージアムにおける足半収集の特徴は、他の資料とは異なり、研究テーマとして意識的に積極的に収集していることが収集経過のデータからも明らかにみてとれる。し

かし、アチック・ミュージアムの同人の中では足半率に差があり、資料の収集と分析といった役割分担が存在していたこともうかがえるのである。

注

- 1) 詳細は(藤井 2001a; 2001b; 2001c)を参照。
- 2) 桜田勝徳はアチック・ミュージアムの研究会活動について、始め足半の研究が盛んで1935年(昭和10年)に行われ、この年の末には終了し、1936年(昭和11年)に入ると麻に関する研究会がもたれ、盛り上がらないうちに筓の研究会が始まり、1937年(昭和12年)11月28日には筓の調査票発送数は2,618通に達する。(桜田 1979: 891-891)としている。
- 3) 市川信夫氏から市川信次が足半の資料整理のために作成されたと考えられる謄写版刷りの印刷物が神奈川大学日本常民文化研究所へ寄贈されている。この印刷物は足半の採集地と足半の各部の法量や形式、材料、重量の記載や計測ポイントを図示する平面図と側面図が印刷された「アシナカ測定表」とでもいうべきものである。詳細は(藤井 2008: 255-263)を参照。
- 4) 図1を参照。本図は(藤井 2001b)所収の「草間このえ・千代による足半収集の足跡」の図に新潟県東頸城郡釜淵(昭和12年5月26日)、北頸城郡坂下新田(昭和12年6月21日)、東四ツ屋(昭和12年6月22日)、東田屋新田(昭和12年6月24日)、西頸城郡新戸(昭和12年8月18日)、小見(昭和12年8月20日)、田中(昭和12年9月10日)、砂場(昭和12年9月17日)を加え、修正している。
- 5) 市川信夫氏が(市川信夫 2003: 163-165)にて紹介されている。

文 献

アチック・ミュージアム編

- 1935a 「MEMORANDUM」『アチックマンズリー』1: 1-2。
 1935b 「MEMORANDUM」『アチックマンズリー』2: 3-4。
 1935c 「所謂足半(あしなか)に就いて(豫報1)」『民族学研究』1(4): 116-174。
 1936a 「所謂足半(あしなか)に就いて(豫報2)」『民族学研究』2(1): 115-245。
 1936b 「所謂足半(あしなか)に就いて(豫報)」東京: アチック ミュージアム。
 1936c 「MEMO」『アチックマンズリー』9: 3。
 1936d 「MEMO」『アチックマンズリー』10: 3-4。
 1936e 「MEMO」『アチックマンズリー』12: 3。
 1936f 「鳥兎早早—アチックの一年」『アチックマンズリー』19: 2-4。
 1937 「新年打合せ会」『アチックマンズリー』20: 1-3。
 1938 「出版室」『アチックマンズリー』30: 3-4。

市川信次

- 1994 「閉ざされた世界—高田瞽女」『ふるさと文学館19巻 新潟』pp. 140-151, 東京: ぎょうせい。

市川信夫

- 2003 「足半の採集と瞽女—「市川信次の瞽女研究」から」上越郷土研究会編『頸城文化』51: 156-167。

河岡武春

- 1975 「渋沢敬三と筓と足半」『日本民俗学』99: 9-24。

斎藤真一

- 1972 『瞽女—盲目の旅芸人』東京: 日本放送出版協会。
 1975 『越後瞽女日記』東京: 河出書房新社。

桜田勝徳

- 1979 「敬三とアチックミュージアム」渋沢敬三伝記編纂刊行会編『渋沢敬三 上巻』pp. 845-924, 東京: 渋沢敬三伝記編纂刊行会。

中村俊亀智

- 1984 「アチック民具研究の道すじ—収蔵状況とのかねあいにおいて」『国立民族学博物館研究報告』8(4): 839-863。

藤井 アチック・ミュージアムの足半収集の経緯

藤井裕之

2001a 「瞽女が集めた足半」近藤雅樹編『図説大正昭和くらしの博物誌 民族学の父渋沢敬三とアチック・ミュージアム』pp. 34-35, 東京：河出書房新社。

2001b 「アチックと足半と瞽女」近藤雅樹編『図説大正昭和くらしの博物誌 民族学の父渋沢敬三とアチック・ミュージアム』pp. 54-57, 東京：河出書房新社。

2001c 「アチック・ミュージアムの足半蒐集と瞽女」『民具マンスリー』33(12): 14-17。

2008 「アシナカ測定表」『歴史と民俗』24: 255-263, 東京：平凡社。

宮本馨太郎

1963 「民具研究の回顧と展望」『物質文化』2: 1-22。

表1 『所謂足半（あしなか）に就いて（豫報）』において分析対象となったアチック・ミュージアム所蔵足半の採集及び収蔵年月日

整理番号	アチック収蔵番号	民博標本番号	採集年月日	アチック収蔵年月日
青森県				
0103	3327	16269		昭和8年8月23日
岩手県				
0201	3249	16198		昭和8年8月4日
0202	5354	17171		昭和10年6月9日
0203	5427	17250		
0205	3234	16183		昭和8年8月4日
秋田県				
0401	4014	16551	昭和9年9月	
0402	5285	17113		昭和10年5月20日
0403	5286	17114		昭和10年5月20日
0404	5287	17115		昭和10年5月20日
0405	5298			
山形県				
0501	2700	15679	昭和6年6月	
0502	2701	15680	昭和6年6月	
0503	4020	16552	昭和9年12月11日	
0505	4021	16553	昭和9年12月11日	
0507	5179	17022	昭和10年	昭和10年2月2日
福島県				
0601	4416	16817		
0602	5421	17243	昭和10年8月3日	昭和10年8月9日
0603	5351	17168		昭和10年6月12日
0609	5444	17262	昭和10年8月8日	昭和10年8月16日
茨城県				
0701	5283	17109		昭和10年5月8日
0702	5284	17112		昭和10年5月8日
栃木県				
0805	5443	17261	昭和10年8月12日	昭和10年8月16日
0809	5536	17342	昭和10年7月	昭和10年9月3日
群馬県				
0901	2496	15491	昭和5年5月	昭和5年10月
0903	2137	15104	昭和4年9月	
0904	3654		昭和9年2月	
0905	3655		昭和9年2月	
0909	5442	17260	昭和10年8月8日	昭和10年8月16日
埼玉県				
1001	5445	17264	昭和10年8月5日	昭和10年8月14日
1002	5446		昭和10年8月5日	昭和10年8月14日
1003	5425	17248	昭和10年8月9日	昭和10年8月11日
千葉県				

藤井 アチック・ミュージアムの足半収集の経緯

整理番号	アチック収蔵番号	民博標本番号	採集年月日	アチック収蔵年月日
1101	5385	17208	昭和10年7月13日	昭和10年7月15日
1102	5386	17209	昭和10年7月	
1117	5462	17275		昭和10年8月16日
1118	5537	17343	昭和10年8月19日	昭和10年9月2日
1119	5538	17344	昭和10年8月19日	昭和10年9月2日
東京府				
1203	2488		昭和5年9月	
1204	2632	15614	昭和5年	
1205	2941	15930		昭和7年5月
1207	2047	15007	昭和3年8月	
1208	2046	15006	昭和3年8月	
1209	2042	15002	昭和2年8月	
1210	2043	15003	昭和2年8月	
1211	2044	15004	昭和2年8月	
1212	5447		昭和10年8月8日	昭和10年8月10日
1213	5424	17247	昭和10年8月8日	昭和10年8月10日
1223	2157	15123	昭和4年8月	
1224	2158	15124	昭和4年8月	
1225	2159	15125	昭和4年8月	
1226	5556	17363		
1227	5557	17364		昭和2年3月12日
神奈川県				
1301	5396	17218	昭和10年7月29日	昭和10年7月30日
新潟県				
1401	3168	16131	昭和8年5月	
1402	3171	16134	昭和8年5月	
1403	4016		昭和9年12月9日	
1404	5233	17070	昭和10年2月7日	昭和10年3月23日
1405	5235	17072	昭和10年2月7日	昭和10年3月23日
1406	5237	17074	昭和10年2月7日	昭和10年3月23日
1407	5253	17087	昭和10年2月22日	昭和10年3月23日
1412	5407	17229	昭和10年8月2日	昭和10年8月5日
1413	5408	17230	昭和10年8月2日	昭和10年8月5日
1414	5409	17231	昭和10年8月2日	昭和10年8月5日
1415	5410	17232	昭和10年8月2日	昭和10年8月5日
1416	5419	17241	昭和10年8月4日	昭和10年8月9日
1417	5420	17242	昭和10年8月6日	昭和10年8月9日
1418	5304			昭和10年6月2日
1419	5190	17030	昭和10年2月15日	昭和10年2月18日
1420	5192	17032	昭和10年2月15日	昭和10年2月18日
1421	5218	17058	昭和10年1月12日	昭和10年3月4日
1422	5401	17223	昭和10年7月	昭和10年7月
1423	5402	17224	昭和10年7月	昭和10年7月16日

整理番号	アチック収蔵番号	民博標本番号	採集年月日	アチック収蔵年月日
1427	5428	17251		昭和10年7月
1428	5429	17252		昭和10年7月
1430	5411	17233	昭和10年7月	
1431	5414	17236	昭和10年7月	
1432	5415	17237		
1433	5416	17238	昭和10年7月27日	
1434	5417	17239	昭和10年7月27日	
1435	5413	17235	昭和10年7月27日	
1436	5412	17234	昭和10年7月	
富山県				
1501	4028	16558	昭和9年12月1日	
石川県				
1601	5032	16919	昭和10年1月5日	昭和10年1月7日
福井県				
1701	5527	17334	昭和10年8月14日	昭和10年9月3日
山梨県				
1802	4463	16851	昭和9年8月8日	
長野県				
1901	2809	15790	昭和6年9月	
1902	5217	17057	昭和10年1月	昭和10年3月4日
1903	5230		昭和10年	昭和10年3月13日
1904	5231	17068	昭和10年	昭和10年3月13日
1907	5545	17352		昭和10年9月5日
岐阜県				
2001	2207a	15171	昭和4年9月	
2001	2207b	15172		
2001	2207c	15173		
2002	3379	16309	昭和8年9月6日	
2003	3380	16310	昭和8年9月6日	
2004	5325	17147		昭和10年5月29日
静岡県				
2101	5099	16977	昭和10年	昭和10年2月14日
2102	5103	16981	昭和10年	昭和10年2月14日
2103	5105		昭和10年	昭和10年2月14日
2104	5109	16986	昭和10年	昭和10年2月14日
2105	5110	16987	昭和10年	昭和10年2月14日
2106	5112		昭和10年	昭和10年2月14日
2107	5405	17227		昭和10年8月5日
2108	5406	17228		昭和10年8月5日
2109	5422	17244		昭和10年8月9日
2110	5423	17245		昭和10年8月9日
2111	3656	16457	昭和9年2月	
2112	5107	16984	昭和10年	昭和10年2月14日

藤井 アチック・ミュージアムの足半収集の経緯

整理番号	アチック収蔵番号	民博標本番号	採集年月日	アチック収蔵年月日
2113	4451	16842	昭和9年8月6日	
2114	4452	16843	昭和9年8月6日	
2115	4453	16844	昭和9年8月6日	
2116	4454	16845	昭和9年8月6日	
2117	5101	16979	昭和10年	昭和10年2月14日
2118	5102	16980	昭和10年	昭和10年2月14日
2119	5106	16983	昭和10年	昭和10年2月14日
2120	5199a	17042	昭和10年2月5日	昭和10年2月5日
2121	5199b		昭和10年2月5日	昭和10年2月5日
2122	5394	17216		昭和10年7月20日
2123	5108	16985	昭和10年	昭和10年2月14日
2124	5100	16978	昭和10年	昭和10年2月14日
2125	5104	16982	昭和10年	昭和10年2月14日
2126	5395	17217		昭和10年7月20日
2127	5111	16989	昭和10年	昭和10年2月14日
愛知県				
2201	2470	15466	昭和5年8月	
2202	5003	16897	昭和10年1月2日	昭和10年1月4日
2203	5004	16898	昭和10年1月2日	昭和10年1月4日
2204	5005	16899	昭和10年1月2日	昭和10年1月4日
2205	5006	16900	昭和10年1月2日	昭和10年1月4日
2206	5007		昭和10年1月2日	昭和10年1月4日
2207	5008	16901	昭和10年1月2日	昭和10年1月4日
2208	5009	16902	昭和10年1月2日	昭和10年1月4日
2210	3370	16301	昭和8年9月6日	
2211	3371	16302	昭和8年9月6日	
2212	5516	17324		昭和10年9月2日
2213	5517	17325		昭和10年9月2日
2214	5558	17365		昭和10年9月1日
2215	5559	17366		昭和10年9月1日
2216	5560	17367		昭和10年9月1日
2217	5561	17368		昭和10年9月1日
2218	5562	17369		昭和10年9月1日
2219	5563	17370		昭和10年9月1日
2220	5564	17371		昭和10年9月1日
2221	5565	17372		昭和10年9月1日
2222	5566	17373		昭和10年9月1日
2223	5567	17374		昭和10年9月1日
三重県				
2301	5167a	17012	昭和10年2月11日	昭和10年2月13日
2302	5167b	17013	昭和10年2月11日	昭和10年2月13日
2303	3067	16031	昭和8年1月	
2304	5177	17021	昭和10年2月11日	昭和10年2月13日

整理番号	アチック収蔵番号	民博標本番号	採集年月日	アチック収蔵年月日
滋賀県				
2401	5510	17318	昭和9年11月3日	
2402	5511	17319	昭和9年11月	
2403	5512	17320	昭和9年11月	
2404	5513	17321	昭和9年11月	
大阪府				
2602	5398	17220		昭和10年8月2日
兵庫県				
2701	5426	17249		昭和10年7月27日
2702	3437	16344		昭和8年9月
2704	5550	17357		昭和10年9月10日
2705	5551	17358		昭和10年9月10日
2706	5552	17359		昭和10年9月10日
2707	5553	17360		昭和10年9月10日
2708	5554	17361		昭和10年9月10日
2709	5555		昭和10年8月20日	昭和10年9月20日
和歌山県				
2902	5174	17015	昭和10年2月11日	昭和10年2月13日
2903	5175	17019	昭和10年2月1日	昭和10年2月13日
2904	5176	17020	昭和10年2月10日	昭和10年2月13日
2905	3035	16007	昭和7年11月	
2906	5196	17039	昭和10年	昭和10年2月20日
島根県				
3101	3554	16412	昭和8年12月	
3102	3555		昭和8年12月	
3103	3578	16416	昭和8年12月	
3104	5281		昭和10年5月3日	昭和10年5月6日
3105	5282	17108		昭和10年5月
3106	4222	16657	昭和9年5月25日	
3107	4228	16662	昭和9年5月26日	
3108	4230	16663	昭和9年5月26日	
3110	4229		昭和9年5月25日	
3111	4244	16670	昭和9年5月24日	
3112	4245	16671	昭和9年5月24日	
3114	5508	17316		昭和10年8月28日
3115	5525	17332	昭和10年8月14日	昭和10年9月3日
岡山県				
3201	4487	16859	昭和9年10月	
3202	4488	16860	昭和9年10月	昭和9年10月
3203	4489	16861	昭和9年10月	
広島県				
3301	3220	16168		昭和8年7月
3302	3676	16473		昭和9年2月

藤井 アチック・ミュージアムの足半収集の経緯

整理番号	アチック収蔵番号	民博標本番号	採集年月日	アチック収蔵年月日
3303	3677			昭和9年2月
3304	3438	16345		昭和8年9月
3305	3439	16346		昭和8年9月
3306	4317	16730	昭和9年5月23日	
3308	4322	16735	昭和9年5月23日	
3309	4323	16736	昭和9年5月23日	
3312	3440	16347		昭和8年9月
山口県				
3401	5342	17160		昭和10年6月5日
3402	5343	17161		昭和10年6月5日
3403	5350	17167		昭和10年6月5日
3404	5533	17340		昭和10年9月1日
3405	5344	17162		昭和10年6月5日
3406	5531	17338		昭和10年9月1日
3407	5532	17339		昭和10年9月1日
3408	5530	17337		昭和10年9月1日
高知県				
3801	4007	16544	昭和9年7月	昭和9年
3802	5081			昭和10年1月19日
3803	5082	16964		昭和10年1月19日
3804	4402	16805	昭和9年6月	
3805	4403			
福岡県				
3901	3606	16428	昭和8年12月	
3903	3703	16487	昭和9年3月	
3904	3736	16507	昭和9年3月	
3905	4383	16789		昭和9年3月13日
長崎県				
4101	5541	17348	昭和10年8月24日	昭和10年9月4日
4102	5542	17349	昭和10年8月24日	昭和10年9月4日
4103	5543a	17350	昭和10年7月22日	昭和10年9月4日
4104	5543b		昭和10年7月22日	昭和10年9月4日
4105	5544	17351	昭和10年8月20日	昭和10年9月4日
熊本県				
4201	4384	16790	昭和9年2月	
大分県				
4301	5399	17221		昭和10年8月4日
4302	5400	17222		昭和10年8月4日
宮崎県				
4401	3745	16514	昭和9年3月	
4402	5539	17346		昭和10年9月2日
4403	5540	17347		昭和10年9月2日
鹿児島県				

整理番号	アチック収蔵番号	民博標本番号	採集年月日	アチック収蔵年月日
4501	4251	16678	昭和9年5月13日	
4503	5334	17156		昭和10年5月31日
4504	3035	16007	昭和7年11月	
4505	3413	16330	昭和8年9月	
4506	4309	16726	昭和9年5月14日	
4508	4257	16683	昭和9年4月14日	
4512	4120	16588		
4513	4121	16589	昭和9年4月14日	
4514	4150	16609	昭和9年5月15日	
4518	4157	16614	昭和9年5月15日	
4524	5364	17185	昭和10年	昭和10年6月25日
4525	4166	16620	昭和9年5月16日	
4526	4174	16625	昭和9年5月16日	
4529	4177	16630	昭和9年5月16日	
4530	4180	16631	昭和9年5月16日	
4533	4186	16634	昭和9年5月16日	
4536	5321	17143		昭和10年6月5日

(出典：著者作成)

表 2 足半の年度ごと収集数

(足半の収集期間 1927年(昭和2年)8月～1960年(昭和35年)11月25日まで)

年度別収集数			
昭和2年(1927)8月以降	5点		
昭和3年(1928)	0点		
昭和4年(1929)	7点		
昭和5年(1930)	4点		
昭和6年(1931)	3点		
昭和7年(1932)	3点		
昭和8年(1933)	22点		
昭和9年(1934)	49点		
昭和10年(1935)	242点	8月末まで	106点
		9月以降	111点
		月日不明	25点
昭和11年(1936)	81点		
昭和12年(1937)	147点		
昭和13年(1938)	69点		
昭和14年(1939)	33点		
昭和29年(1954)	2点		
昭和30年(1955)	0点		
昭和31年(1956)	1点		
昭和32年(1957)	1点		
昭和33年(1958)	2点		
昭和34年(1959)	8点		
昭和35年(1960)11月25日まで	6点		
未記入 不明	299点		

(出典：著者作成)

表3 足半収集者

	収集者	全収集資料数	足半収集数	発行前	発行後	足半率 (%)
1	不明	4,608	218	確認できるのは 発行前が1点、発行後が97点		
2	草間このえ・千代	116	116	0	116	100.0
3	AM 同人	801	73	56	17	9.1
4	市川信次	73	35	12	23	48.0
5	河田杰	37	33	5	28	89.0
6	金子総平	53	29	11	18	55.0
7	内田武志	87	26	16	10	30.0
8	早川孝太郎	524	24	16	8	4.6
9	磯貝勇	92	12	11	1	13.0
10	藤木喜久麿	524	11	11	0	2.1
11	山本二三丸	12	11	0	11	92.0
12	祝宮静	12	9	0	9	75.0
13	江島勝美	14	9	8 残りは不明		64.0
14	村上清文	78	9	7	2	12.0
15	高木一夫	10	8	1	7	80.0
16	宮本馨太郎	353	8	0	8	2.3
17	岩倉市郎	154	7	2	5	4.6
18	宮本常一	22	6	1	5	27.0
19	後藤謙三	5	5	0	5	100.0
20	向山雅重	10	5	0	5	50.0
21	永井竜一	46	5	3	2	11.0
22	荻原治作	4	4	4	0	100.0
23	宮下恒	5	4	0	4	80.0
24	窪田五郎	5	4	4	0	80.0
25	宮本ユキ	6	4	4	0	67.0
26	結城次郎	48	4	1	3	8.3
27	桜田勝徳	71	4	4	0	5.6
28	古河静江	466	4	0	4	0.9
29	渋沢敬三	678	4	3	1	0.6
30	高畑新之助	3	3	3	0	100.0
31	浅木兵一	3	3	3	0	100.0
32	大沢三千三	3	3	3	0	100.0
33	山口常助	3	3	0	3	100.0
34	野間吉夫	3	3	0	3	100.0
35	林魁一	3	3	0	3	100.0
36	碓ヶ関営林署	3	3	0	3	100.0
37	小川徹	6	3	2	1	50.0
38	中島吉應	10	3	0	3	30.0
39	村上俊順	13	3	3	0	23.0
40	武藤鉄城	60	3	3	0	5.0
41	AM 旅行団	99	3	3	0	3.0

藤井 アチック・ミュージアムの足半収集の経緯

	収集者	全収集資料数	足半収集数	発行前	発行後	足半率 (%)
42	清野	2	2	2	0	100.0
43	内田勝也	2	2	2	0	100.0
44	佐藤不二夫	2	2	0	2	100.0
45	三田村耕治	2	2	0	2	100.0
46	山下久男	2	2	0	2	100.0
47	山口康雄	2	2	0	2	100.0
48	秋田正一郎	2	2	0	2	100.0
49	山田芳子	2	2	0	2	100.0
50	門川盛蔵	2	2	0	2	100.0
51	増山清太郎	3	2	1	1	67.0
52	岡田松三郎	3	2	0	2	67.0
53	後藤貞夫	4	2	2	0	50.0
54	兵藤賢二	4	2	0	2	50.0
55	小林未夫	4	2	0	2	50.0
56	安達和太郎	6	2	0	2	33.0
57	近藤勘次郎	19	2	2	0	11.0
58	山口和雄	32	2	2	0	6.3
59	吉岡高吉	42	2	2	0	4.8
60	小松勝美	57	2	2	0	3.5
61	田中喜多美	70	2	2	0	2.8
62	古野清人	174	2	0	2	1.1
63	原田清	7	2	不 明		
64	柿堺欣一郎	1	1	1	0	100.0
65	斉藤敏男	1	1	1	0	100.0
66	大原米蔵	1	1	0	1	100.0
67	岡本三郎	1	1	0	1	100.0
68	宮下国廣	1	1	0	1	100.0
69	及川宏	1	1	0	1	100.0
70	山本リテ	1	1	0	1	100.0
71	小川フジ	1	1	0	1	100.0
72	小倉軍治	1	1	0	1	100.0
73	小林英夫	1	1	0	1	100.0
74	松原久治	1	1	0	1	100.0
75	山崎毅	1	1	0	1	100.0
76	松田常彦	1	1	0	1	100.0
77	西田勇	1	1	0	1	100.0
78	長岡博男	1	1	0	1	100.0
79	土屋利夫	1	1	0	1	100.0
80	南藤松	1	1	0	1	100.0
81	飯城斐子	1	1	0	1	100.0
82	有川金吉	1	1	0	1	100.0
83	林友英	1	1	0	1	100.0
84	鈴木棠三	1	1	0	1	100.0

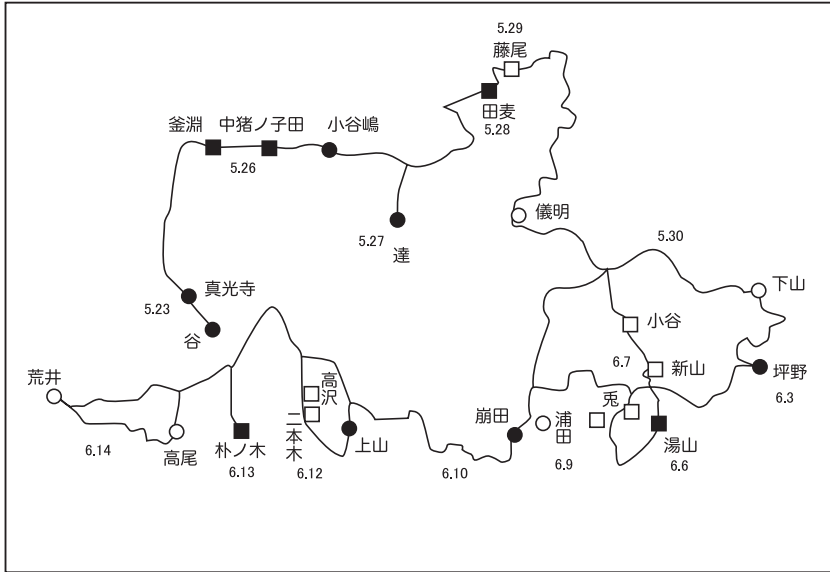
	収集者	全収集資料数	足半収集数	発行前	発行後	足半率 (%)
85	片岡長治	1	1	0	1	100.0
86	増川営林署	1	1	0	1	100.0
87	日本青年能郷土資料陳列所	1	1	0	1	100.0
88	黒田清良	2	1	1	0	50.0
89	安済満	2	1	1	0	50.0
90	木川半之丞	2	1	0	1	50.0
91	大滝新蔵	2	1	0	1	50.0
92	常松卓三	2	1	0	1	50.0
93	瀧波善雄	2	1	0	1	50.0
94	宮本武雅	3	1	1	0	33.0
95	窪田弘	3	1	0	1	33.0
96	守木清	3	1	0	1	33.0
97	島崎直幹	4	1	0	1	25.0
98	伊豆川浅吉	4	1	0	1	25.0
99	吉田千代	5	1	1	0	20.0
100	横内三直	5	1	0	1	20.0
101	浜田完	7	1	1	0	14.0
102	小田内通敏	8	1	1	0	13.0
103	幸野辰夫	9	1	1	0	11.0
104	丹田次郎	10	1	0	1	10.0
105	大宮美年臣	10	1	0	1	10.0
106	五十澤二郎	11	1	0	1	9.0
107	宮本勢助	13	1	1	0	7.7
108	高岡銀行上市支店	15	1	0	1	6.7
109	箱山貴太郎	18	1	0	1	5.6
110	小井川潤次郎	19	1	1	0	5.3
111	斉藤善助	19	1	0	1	5.3
112	岩井亀千代	20	1	1	0	5.0
113	高橋哲雄	25	1	0	1	4.0
114	高橋文太郎	53	1	0	1	1.9
115	中村弥平	1	1	不	明	
116	佐藤富治	20	1	不	明	
117	山本勇	5	1	不	明	
118	八木百太郎	1	1	不	明	
119	宮永清策	1	1	不	明	

(出典：著者作成)

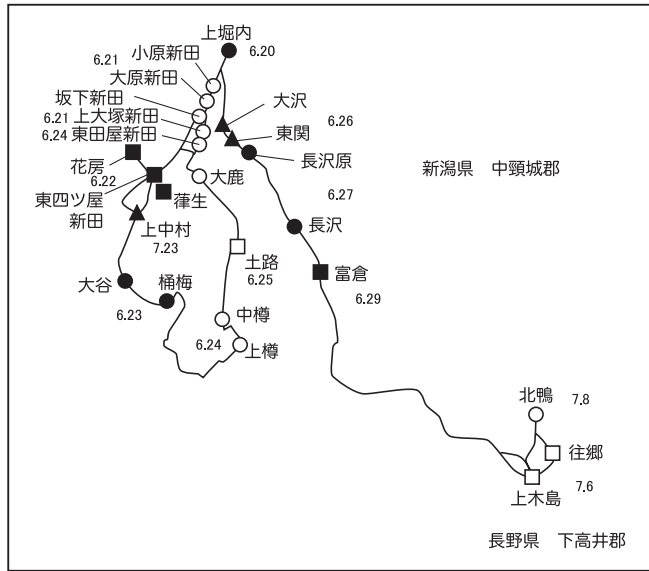
表4 都道府県ごとの足半収集数

都道府県	収集数	主な収集者	都道府県	収集数	主な収集者	都道府県	収集数	主な収集者
青森	20	河田杰	長野	37	草間このえ・千代 向山雅重 村上俊順	広島	12	磯貝勇 AM 同人
岩手	26	河田杰 AM 同人	富山	4	市川信次 渋沢敬三	鳥取	5	金子総平
秋田	7	武藤鉄城	石川	4	山下久男	島根	16	AM 同人 渋沢敬三
宮城	4	河田杰	福井	4	永井竜一	山口	10	宮本ユキ
山形	9	AM 同人 清野	静岡	51	内田武志 宮本馨太郎 AM 同人	香川	5	AM 同人 秋田正一郎
福島	10	金子総平	愛知	29	AM 同人 山本二三丸 窪田五郎	徳島	5	金子総平
栃木	7	金子総平	岐阜	16	早川孝太郎	愛媛	9	
群馬	8		三重	4	AM 同人	高知	7	吉岡高吉
茨城	6	河田杰	滋賀	8	AM 同人	福岡	9	早川孝太郎
埼玉	4	内田勝也	京都	4		佐賀	1	金子総平
東京	19	藤木喜久磨	奈良	2		長崎	12	江島勝美
千葉	14	宮下恒 大沢三千三	大阪	5	宮本常一	大分	9	祝宮静
神奈川	6		和歌山	5	AM 同人	熊本	3	
新潟	269	草間このえ・千代 村上清文 市川信次 萩原治作 金子総平	兵庫	11	後藤謙三	宮崎	3	門川盛蔵
山梨	2		岡山	9	AM 同人 浅木兵一	鹿児島	34	AM 同人 岩倉市郎
						日本	90	
						不明	1	
						合計	835	

(出典：著者作成)



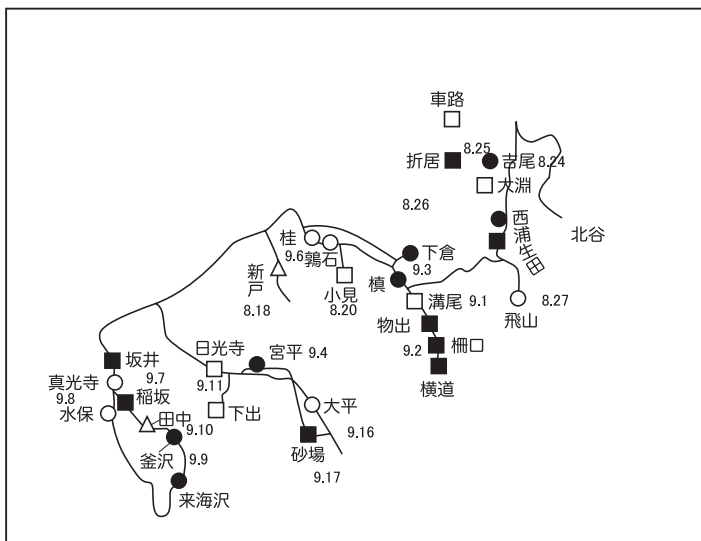
新潟県東頸城郡方面



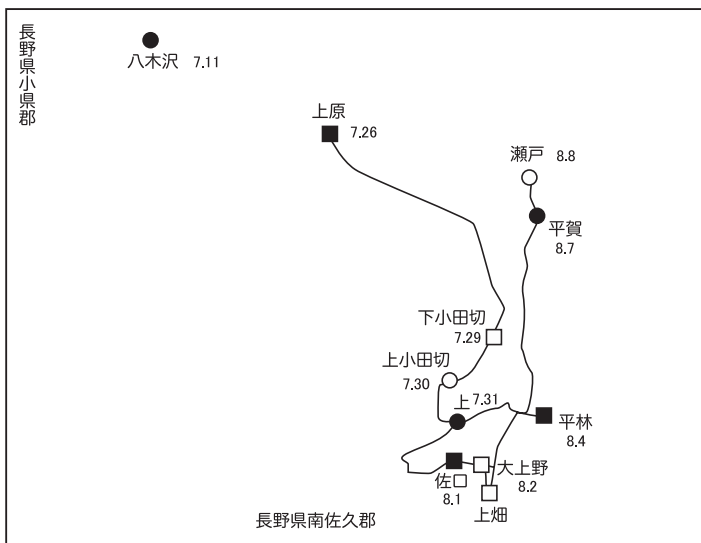
新潟県中頸城郡～信州方面(1)

図1 草間このえ、千代による足半収集の旅程 (出典：著者作成)

- A 出発は全て高田から
- B ●○■□△などの地名のマークは同一の場合、収集日が同一であることを示しています。
- C 経路が記入されていない部分は特定できない場合です。



新潟県西頸城郡方面



新潟県中頸城郡～信州方面(2)

図1 (つづき)